

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障害児通所支援事業所リアンピース		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 3日 ～ 令和8年 2月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 3日 ～ 令和8年 2月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	風通しの良い職場・人間関係	日頃から世間話等の会話を増やし、職員同士がお互いのことを知るようにしている。支援に関しても立場に関係なく意見できる関係を意識し、より良い支援ができるよう努めている。	職員一人一人がスキルアップをすることで意見の幅が広がり、より質の高い支援ができるようにする。
2	アットホームで利用者やそのご家族との距離が近い	できる範囲ではあるがご家族の要望に沿えるようにしている。利用者と職員ではあるが上下ではなく横並びの関係を職員一同意識している。	面談時だけではなく送迎等日頃から関係づくりや言葉遣いを意識し、より良い関係を築けるように意識する。
3	利用者一人一人に合わせた支援ができる	集団生活ではあるが、利用者一人一人の障害特性・性格・今の状況等を考えながらその都度適切な支援を考えている。プログラムにも自由度を持たせることで状況に合わせた支援ができています。	今以上に職員の情報共有を増やし、利用者の様子を深く知れるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援室が狭い	制度的には問題ないが利用者の特性等からクールダウン用のスペースや設備が必要だと考えている。	建物の構造等に関しては随時検討している。パーティション等すぐに導入できるものは導入し活用していく。
2	職員の平均年齢が高い 人材不足	強度行動障害や肢体不自由等の利用者もいるため専門性が求められる。	研修や職員の保護を手厚くし、働きやすい環境を整える。
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 R8 年 3 月 31 日				
りあんびーすⅡ						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○		法令に遵守したスペースを確保している。必要に応じてパーティション等を活用しながらスペースを確保する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		適切である。外出時は基準以上で出られるように配置し、けがや事故の防止に努めている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		玄関や室内などに手すりの設置を検討していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃とアルコール消毒を行っている。活動に合わせてスペースを分けている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		部屋数は限られているが、パーティションなどを使って活動を行っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		業務の役割分担を明確にし、実施している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者様からのご意見や、それに対する回答をお便りで知らせている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		その都度職員間で話し合いを行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者評価の導入を検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		内容は異なるが毎月研修を行い職員の資質向上を図っている。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページにて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		偏ったアセスメントにならないように職員全体で複数回行い適切なアセスメントが取れるようにしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		風通しの良い職場を意識し、立場に関係なく発言できるようにしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		日頃から会話を増やし、同じ方向を向いた支援ができるようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」に沿った支援内容を踏まえて個別支援計画に反映、設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		プログラムの目的や当日の子どもの人数などに合わせ職員の役割などを話し合っている。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもの特性により、内容を変化させたり季節の活動を取り入れている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		1人1人の発達に応じ、個別と集団活動を支援計画にいれている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		必ず行うようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		振り返りだけではなく内容によっては翌日以降に支援会議を開き、より良い支援へとつなげている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		気になる点については支援会議を開いている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		概ね6か月に1度、見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動の中で自己選択する等の場面を設けながら支援を行っている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		主に児童発達支援管理責任者が出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて関係機関との連携を図っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		保護者様を通じて情報を得ている。また、学校への見学会などの機会を利用している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		事業所へ見学に行かせていただき情報共有を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		保護者様の要望がある際には検討している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		保護者様から要望があれば、検討していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		保護者様から要望があれば研修の機会や情報提供を行ってきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		保護者会の開催を検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情受付・解決担当者は重要事項説明書に記載し契約時に説明を行っている。	迅速な対応に努めていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページやリアンピース便り等で活動の様子を公表している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		特に行っていないため、検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者様に健康状態の記入や聞き取りを行っている。	職員間で定期的に服薬について情報共有を行っている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		危険な事例があった場合は報告書に記載し、ミーティングを通じて職員で共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年に1回は虐待防止・身体拘束についての研修は確保している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			